

内 容

* 2004 年 第 11 回ヴィレッジセミナー報告(2)

3. プログラムの構成

研修担当 ウェインさん

* 2004 年 第 11 回ヴィレッジセミナー報告(2)

3. プログラムの構成

研修担当 ウェインさん

ヴィレッジがどのようなものか、どのような環境にあるのかについて話していきたいと思います。でも色々な事を行っているのです、単純にお話しすることはとても難しいです。

ヴィレッジではグループに対して日々のスケジュールが決まっているわけでは無いのです。メンバーそれぞれの個人に対してスケジュールを決めているのです。例えば教育に興味がある方がいた場合、地域に有る大学に連れて行ったりします。あるメンバーがアパートに住んで一人で暮らしていきたいという場合、そのアパートに職員が出かけて行き、食事を作ったり掃除をしたりすることもあります。

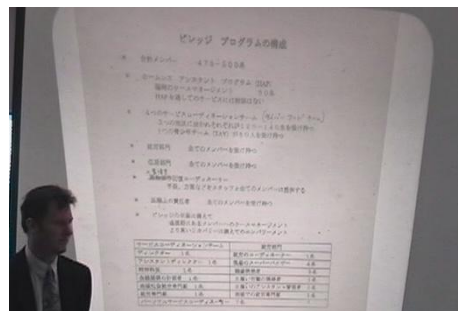
スタッフがどのような組織になっているかお話ししますが、私どもはネイバーフッド(近隣)というチーム構成にしており、色々な専門家と共に精神障がいをお持ちの方も働いております。この様にしているのは精神障がいを持っていても働く事が出来るという希望を見る事が出来るからです。

前にも話しましたが、ヴィレッジには 500 人のメンバーがいます。メンバーの 60% には自分のアパートを持っています。そして 20% の方は賄い付きのグループホームに住んでいます。そして 10% 強の方が薬物依存症等の施設に住んでいます。

私どものメンバーにはホームレスの方や薬物依存の方が多くいて、その方々のトレーニングをしています。我々のプログラムにホームレスアシスタントプログラムというものがあります。これは公園に寝泊まりしている方や橋の下に住んでいる方などホームレスのところに外かけて行き、サービスを提供しています。

我々の活動は精神疾患の病名を判断することよりも、その人と人間関係を築くためのサービスを提供することと考えています。そしてそれらの方々には有益な情報や環境を与えられることにより、より多くの情報を提供して頂けるのです。ですから人間関係が築けていないと、必要とする彼らの情報を得る事が出来ないでしょう。ホームレスの方の援助の方法は、洗濯場所を提供するシャワーが浴びられる、食事が提供されるという様なことを通じて人間関係を築くようにしています。

ヴィレッジに参加するためにはきちんと薬を飲んでいという様な決まりは有りません。そしてヴィレッジに参加することによって自分の生活が良くなることを教えられるのではなく、自分自身で理解していただくことが重要なのです。でも人間関係を築くには人によって大きく違います。数か月で築ける人もいますが数年かかる場合もあります。



4つのサービスコーディネーションチームが有り、それをネイバーフッドチームと呼んでいます。ネイバーフッドとは近隣という意味で、メンバーにしても職員にしても近所同士で皆良く知っているという意味を持っています。そしてメンバーが近隣に来た時に、そこには精神科医や金銭管理者、地域社会統合のスペシャリスト、リハビリ担当、PSC（パーソナルサービスコーディネーター）等夫々の専門家がいて、更にリーダーであるディレクターと補助をするアシスタントディレクターがいます。でもチームスタッフは殆どヴィレッジ内部にはいません。それはメンバーの家に行ったり、メンバーと一緒に学校に行ったり、メンバーと同じ環境でサービスを提供したいと考えているからです。

地域社会統合のスペシャリストは、メンバーが地域社会の中で所属できそうな活動や教会の中のグループ活動などをリサーチしてメンバーに提供する仕事をしています。そしてメンバーに精神障がいがあるとしても生活を支える力を与えることです。

メンバーは精神疾患を持ち色々な症状、妄想や落ち込み等がありますが、それが目標としている学校に行くことや社会に出ることの障害になっているとみなして、その障害が自分の夢や生活の目的を達成できないと考えてしまいます。



その他に幾つかの要素があります。先ず就労の部門ですが、この部門がデイケアの重要な機能を果たしています。それは仕事に集中したり自分の人生に対して価値のある役割を持ったりするためには、この就労の部分がある役割を持っているのです。今日昼食を取っていただくデリがあります、そこではメンバーが働いていますし、電話担当やミニマーケットでの販売でもメンバーが働いています。また清掃を担当しているメンバーもいます。

ヴィレッジには理念があります、それは迫って話していきます。

またヴィレッジにはメインストリームというものが有りますが、それはプログラムの一部で、最終的にメンバーにはヴィレッジから卒業して頂くことを念頭に置いています。

そのメインストリームというプログラムの目標というのは、メンバーが回復基調にあるということを信じている時に、前よりもお手伝いを少なくして、自信を持って自分たちでもっと出来る様なやり方をしていただくことです。

これはメンバーだけでなくスタッフもありますが、ヴィレッジを卒業したら自分はどの様になるだろうと懸念を抱いているのです。

またハイリスクハイサポートという方法を取ります。これは後でお話ししますが、リスクの高いことに挑戦する場合は、より高いサポートをしていきます。

我々は、メンバーが生活していく上で困難に遭遇しないように回避するのが仕事ではありません。メンバーが困難に遭遇した時、どの様にしたら困難を盛り超えられるのかをサポートすることが重要です。そしてメンバーは困難を乗り越えることにより自信を得る事が出来るのです。ですから我々はメンバーの面倒を見る、守るという役割から出て、一緒に仕事をしたり話をしたり友達を得たりという機会を作っているという役割を持っています。

何か質問はありますか？

（参加者）近隣とはどのあたりですか？

（ウエイン）ヴィレッジの本当に近くの方々です。でも人によっては少し離れている人もいます。基本的にロングビーチに住んでいる必要があります。でも少し遠くに越されたような場合は、訪問の頻度が下がる場合があります。

(参加者)メンバーでいられる期間は有るのですか？

(ウエイン)人が色々な事をするときには、色々な事が起こります。どの位で良くなるのかは予想が付きません。色々な条件が変わっていきますので非常に難しいです。現状では期限は定めていません。メンバーが自分で決めて、我々はそれをサポートしています。何年もプログラムに参加している方がいて、自分の目標をある程度達成できていると思われる場合は、我々が次のステップに進むよう勧める場合もあります。そしてメンバーの多くは月に1〜2回しかヴィレッジには来ません。その方々は地域社会に出て活躍されているのですが、卒業する判断が出来ずヴィレッジと繋がりを持ち続けています。

(参加者)ヴィレッジに入所する資格は何ですか？

(ウエイン)重度の精神障がいを持っていてホームレスであることです。そして入所した後に何かを求めることは有りません。過去14年間で入所できなかった方は2名しかいません。精神障害の状態があまりにも酷く対処不可能な場合以外は入れます。

アメリカにおいて留置所がホームレスの住居となっておりまして、これはカリフォルニアに限らず全米で同じなのですが、ホームレスを警察が逮捕して留置所に拘留するので、いつの間にかこの様な状況になってしまいました。

(参加者)対象はホームレスの方だけなのですか？

(ウエイン)先程マーサさんが話された部分 فقطですと、ホームレスだけが対象となります。しかしバンホーンさんが話された部分で、他に資金源が出来たので、とありましたが、この資金によって精神障がい家庭にいる方も受け入れられるようになりました。

(参加者)メンバーとなる方はどのような方法でこちらに来るようになるのですか？

(ウエイン)スタッフやボランティアスタッフが、ホームレスのいる橋の下や公園に行き話したり、留置所に出向き出所される方に話をしたりして、回復に希望を持っている方たちをヴィレッジに連れてくる様にしております。

(参加者)回復を目標にしていますが、どの位の期間がかかりますか？

(ウエイン)回復というのが最終的な目標であり、全ての方が回復して卒業する可能性を持っておりますが、以前よりも症状は軽くなっているものの長期に渡ってメンバーにいる方もおります。でも私たちはメンバー全員が治療を受けて自分の人生を生きていくという事を目標に日々プログラムを実施しております。

そしてメンバーにその様な変化を持っていただけるようにするかといいまして、例えばメンバーに自分の薬の名前を知って頂くということも重要なことです。またメンバーとスタッフが毎日行っている内容に慣れてしまい変化が生み出せないことが有ります。メンバーには自分の治療のため自分で出来ることを考えてもらう必要が有ります。そのためには、毎日来るのではなく数日空けて、その間は自分で考えてみることをして頂くようにしています。

回復するためには自分で考えて知る必要が有ります。例えば飲んでる薬の名前を知り、そしてこの薬は何に効果があるのか等ということを自分で調べて、知ることがとても重要です。

私は過渡期のプログラムを4年間担当していますが、そのプログラムに参加している19歳の方の話です。彼は若年者用のグループホームに住んでいますが、毎朝ベッドに寝ていてシャワーを浴びたり歯を磨いたりするのが嫌だと言っていました。そして毎朝毎朝スタッフがベッドに来て、ベッドを揺らして、「ヴィレッジに早く行きなさい」言いました。嫌々ヴィレッジに来ているのが分かりました。それは目を見ると死んでいるような眼をしていたからです。いつもベッドに寝ていて、食べるだけに起きてくるという状態でした。我々は絶

対に諦めないという精神で回復に取り組んでいます。そしてヴィレッジでは諦めずに 10 か月間プログラムを続けたところ、彼は突然仕事をしたいと言い仕事に出かけて行きました。しかし 1 日働いた次の日には、またベッドから出て来なくなってしまったのです。

彼のこのような状況を見てスタッフは落胆の表情を見せました。しかしスタッフは、この経験は失敗したのではなく成功したのだと考えます。それはヴィレッジに来たことで、1 日だけれども仕事に就く事が出来たのです。しかし 3 週間後この方が再度ヴィレッジに来て同様の仕事に就きたいと申し込みをしました。この様にヴィレッジでは何度でもチャレンジすることを容認しており、回復を常に願って活動しています。働く意欲が出たことで、彼の身だしなみも整ってきて、目を見ると輝きが戻ってきて来ました。そして働き初めて 10 か月後グループホームを出てアパートで一人暮らしを始める事が出来ました。しかし彼は 2 か月後にアパートを失うことになります。それは突然訪問してきた友達とトラブルを起こしてしまったからです。しかし我々は彼のサポートを継続することにしました。それはアパートを失ったり仕事を止めてしまったりなど何か有ったものを失ってしまう様なことは常にある事柄だからです。

ここで言いたいことは「スタッフが希望を持つ」ということです。例えばメンバーが希望を持ってない状態でも、スタッフはメンバーに対して常に希望を持ち続けるということが非常に大切なのです。そして我々はメンバーが色々な事に挑戦して成功したときにお祝いをするシステムが有ります。それが「ゴールデンダッキー賞」です。

ゴールデンダッキー賞は、仕事を長い時間続ける事が出来た方や学校に戻る事が出来た方等に賞状とダッキーのマスコットを贈るのですが、500 名程のメンバーが隣の教会に集まって盛大に表彰式をおこないます。教会の入口にはレッドカーペットをひき、リムジン車で送迎をします。毎年ゴールデンダッキー賞を決めるのは全スタッフの投票で決定します。

この話をスタッフや皆さんにしたということはどのような理由かといいますと、どのような時にも望みを失わないようにすることが重要だということ、メンバーによってはスタッフが非常に努力しているのに、それに答えてくれないことや、この花は咲かないのではないかと思う様な時でも、4 年掛かってやっと根が生えて花が咲いたという様なことなのです。時にはこのメンバーは色々なものを乱用してダメなのではないかと思った時、この話「4 年掛かって上手くいっただけ」ということを思い出すのです。

ですから上手くいっただけ経験を色々話することによって、自分の役にも立ちますしスタッフやメンバーの役にも立つのです。これは地域社会に出かけて行って成功するためのお話になります。

有り難うございました。

